

## 円高による台湾向け輸出数量の停滞

青森県りんご輸出協会  
深澤 守

台湾向けりんごは、2002年の台湾WTO加盟を契機に、それまでの輸入割当制（2,000トン）が廃止され、原則自由貿易となったことから順調に輸出量を増やし、2006年に2万トンを超え、2007年には最大の23,878トンを記録している。しかし、2010年から減少に転じ、2011年産では国内相場の高騰と超円高の影響を受けて、台湾がWTO加盟後初めて1万トンを割る水準まで減少している。（表1）

青森リンゴの主な輸出先の台湾には世界中から年間14万トン（2010年産）程度が1年を通して輸入されている。日本産と競合するのはアメリカ（49千トン）韓国（5千トン）など北半球の国々である。南半球の国でも端境期に一部競合している。

青森リンゴの代金決済は円建てとなっているので、円高の影響は台湾側輸入業者にとっては収益性を悪化させる大きな要因となっている。ここ6カ年の台湾ドルとアメリカドル（usd）、韓国ウォン（krw）、日本円（jpy）の為替変動率を日本からの台湾向け取引の最盛期である12月1日で整理したものを表2及び図1に示している。USドル、韓国ウォンともに台湾ドルに対して安値で推移しているのに対して、日本円は2005年対比で3割を上回って円高が進んでいる。

もちろん、各産地の作柄や品質、品種構成、輸出国の相場など多くの要素が絡んで各国からの輸入数量が決まっており、単に為替レートだけに左右されることはないが、現在の極端な円高水準は、確実に日本産リンゴの競争力を失わせていることは間違いない。このままの円高水準が続くと、今後の日本産リンゴの取引量減退が懸念されているが、有効な打開策が無いことが大きな課題となっている。

表1 台湾向け輸出量の推移

年産	台湾向け
1989	400
1998	1,756
2001	5,522
2002	11,213
2003	14,994
2004	10,125
2005	18,083
2006	22,318
2007	23,878
2008	20,498
2009	21,656
2010	15,912
2011	8,433

表2 日本円為替時系列データ

	jpy	usd	twd	krw
2011.12.1	1.000	78.316	2.601	0.070
2010.12.1	1.000	80.590	2.628	0.072
2009.12.1	1.000	91.330	2.798	0.076
2008.12.1	1.000	98.265	2.984	0.076
2007.12.1	1.000	115.470	3.580	0.126
2006.12.1	1.000	116.851	3.516	0.122
2005.12.1	1.000	115.780	3.451	0.111

